



「兵庫版基本CAN-DOリスト」
及びその活用について

平成27年3月
兵庫県教育委員会

はじめに

グローバル化が進行する社会において、生徒たちが、将来、国際社会で活躍できるよう、主体性や創造性、チャレンジ精神、リーダーシップ、異文化理解と日本人としてのアイデンティティを培うとともに、語学力やコミュニケーション能力を育むことが重要です。

兵庫県教育委員会では、平成 24 年度から英語力を強化するための指導改善の取組として、拠点となる県立高等学校 5 校において、学習到達目標を CAN-DO リストの形で設定し、指導と評価の一体化をめざした、4 技能を総合的に育成するための授業研究を進めてきました。その中で、CAN-DO リストの活用により、教員の指導力の向上に加え、生徒自身が達成感を感じ、学習意欲や英語力の向上につながったり、自律的学習者としての態度や姿勢が身につくなどの成果がみられました。

これらの成果を全県立高等学校及び中等教育学校に普及し、県内全域において、更なる英語教育の推進を図るため、今年度、「兵庫版基本 CAN-DO リスト」を開発しました。

本リストは、今後、各学校が地域の実態や生徒の能力に応じて、独自の学習到達目標を設定するための参考としていただくものです。本リストを活用して、全ての学校の教員と生徒が、英語の学習目標を共有することによって、生徒一人一人の基礎的な英語力の向上を図るとともに、グローバル社会に通用する高度な英語力の育成を図ることもできます。

また、各学校において独自の学習到達目標を作成する際、英語教員全員が関わり、生徒に身につけさせたい英語力やそれを達成するための指導方法や評価方法を共有できるよう、「教員のための To-Do リスト」も開発しました。各学校においては、これらのリストを活用しながら、授業改善に向けた取組を進めていただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、本リストの開発にあたりご協力いただきました委員の皆様、並びに、検証作業にご協力いただきました先生方に、心から御礼申し上げます。

平成 27 年 3 月

兵庫県教育委員会

目次

「兵庫版基本 CAN-DO リスト」

「英語学習を支える3領域チェックリスト」

第1部 兵庫版基本 CAN-DO リストの開発

- | | |
|---------------|---|
| 1 目的・趣旨 | 1 |
| 2 基本的な考え方及び特徴 | 1 |
| 3 作成過程 | 2 |

第2部 兵庫版基本 CAN-DO リストの活用

I 兵庫版基本 CAN-DO リスト

- | | |
|-------------------------|---|
| 1 学校独自の CAN-DO リストの作成方法 | 6 |
| 2 学校独自の CAN-DO リストの活用方法 | 9 |

II 英語学習を支える3領域チェックリスト

- | | |
|------------------------|----|
| 1 学校独自の3領域チェックリストの作成方法 | 13 |
| 2 学校独自の3領域チェックリストの活用方法 | 14 |

第3部 CAN-DO リスト活用事例

- | | |
|---------------|----|
| 1 生徒への提示方法 | 15 |
| 2 授業との連動 | 15 |
| 3 自己評価改善の取組 | 16 |
| 4 効果的な活用方法 | 16 |
| 5 視界から外れた生徒たち | 17 |
| 6 反省を生かす | 17 |

Q & A 20

兵庫版基本 CAN-DO リスト構想委員会 22

兵庫版基本 CAN-DO リスト作成委員会 22

兵庫版基本CAN-DOリスト

	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆつくり話されたら、“Stand up” “Sit down” “Come here”という短い指示を理解することができる。 ・日常生活の身近な単語を聞いて、意味を理解することができる。 ・簡単なあいさつの言葉を聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の身近な単語を発音することができる。[発表] ・簡単な質問に対してYes/Noを使って、答えることができる。[やりとり] ・教室よく使われる“Stand up” “Sit down” “I’m fine.”などの簡単な表現ができる。[やりとり] 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック体で書かれたアルファベットを正しく認識することができる。 ・日常生活の身近な単語の意味を理解することができる。 ・日常生活の身近な単語で書かれた短い英文の内容を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットの大きく、小さくをブロック体で書くことができる。 ・簡単な単語・語句・短い文を正確に写すことができる。 ・日常生活の身近な単語や数字(1～10)を正確に書くことができる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆつくり話されたら、数字・曜日・季節などの情報を正確に聞き取ることができる。 ・ゆつくり話されたら、授業でよく使われる指示を理解することができる。 ・ゆつくり話されたら、ALTの自己紹介を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な自己紹介(氏名、学年、学校、家族、住所など)をすることができる。[発表] ・日常生活の簡単なあいさつや数字、日付、季節、天気伝えることができる。[やりとり] ・相手の言っていることがわからない時に、繰り返しでわかりやすく話してもらおう頼むことができる。[やりとり] 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な地図を見て○Ostation、△△hospital × ×storeなどを探することができる。 ・すでに習った単語で書かれた短い英文の内容を理解することができる。 ・絵や写真つきのファストフード店のメニューを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曜日や月名、数字(2ケタ)を正確に書くことができる。 ・身近な事柄や情報に関して、語句を並べて短いメモを書くことができる。 ・自己紹介カードに氏名、学年、学校、家族、住所などを記入することができる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆつくり話されたら、自分の趣味や住んでいる場所などに関する質問を理解することができる。 ・すでに習った短い英文を聞いて、内容を理解することができる。 ・ゆつくり話されたら、ALTの指示に従って活動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な語句を使って、自分の感情や感嘆の気持ちなどを表現することができる。[発表] ・日常生活の出来事や自分に関する出来事であれば、簡単な表現で述べることができる。[発表] ・学校や自分のことなど、身近な話題について、ALTと短い会話をすることができる。[やりとり] 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な話題に関する簡単な短い英文を、単語や熟語の意味を調べながら読み、理解することができる。 ・身近な話題に関する簡単な短い英文を読んで、概要や要点を理解することができる。 ・簡単なメールや、メッセージの内容を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の趣味や好き嫌いを、簡単な単語を使って書くことができる。 ・相手に質問や依頼をする短い文を書くことができる。 ・日常生活での出来事や学校生活の感想を、簡単な単語を使って書くことができる。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆつくり話されたら、ALTの説明を理解することができる。 ・日本語の字彙を参考にする、映画のセリフで使われている単語を聞き取ることができる。 ・地図を参考にしながら、すでに習った表現を使った道案内に従って、目的地までの道順を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な話題について、準備をした上で、簡単なスピーチをすることができる。[発表] ・簡単な表現を用いて、待ち合わせなどの約束をすることができる。[やりとり] ・自分が学んだことや経験したことであれば、簡単な表現を用いて、述べるることができる。[発表] 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な英語で書かれたまとまりのある説明や物語を、単語や熟語の意味を調べながら読み、理解することができる。 ・簡単な英語で書かれたまとまりのある説明や物語を、イラストなどの補助を用いて理解することができる。 ・すでに習った英文を、発音やリズム、イントネーションに注意しながら、音読することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書を使えば、簡単な内容の日記や、自分の経験を短い文で書くことができる。 ・数字(3ケタ以上)を書くことができる。 ・日常生活での出来事や学校生活の感想を、簡単な表現を使って短い文で書くことができる。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の駅や空港で、簡単な英語のアナウンスを聞いて、内容を理解することができる。 ・授業で聞く天気予報や空港のアナウンスを、何度が聞けば、60～70%程度理解することができる。 ・ゆつくり話されたら、自分が知っている外国の行事や習慣についての説明を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに習った表現を使って、リズムやイントネーションに注意して、話すことができる。[発表] ・よく知っている場所であれば、地図や道案内を見ながら、道順を教えることができる。[やりとり] ・比較的ゆつくり話されれば、自分のスピーチに対する質問に答えることができる。[やりとり] 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な英語で書かれたまとまりのある説明や物語を読み、流れを理解しながら、内容を整理することができる。 ・簡単な英語で書かれたまとまりのある説明や物語を読み、80%以上理解することができる。 ・簡単な英語で書かれたチラシやポスターの情報を80%以上読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の周りの出来事、趣味、場所など、自分に直接関係があることならば、簡単な説明文を書くことができる。 ・将来の夢や現在の高校生活の様子やこれまでの思い出などに関する文を書くことができる。 ・簡単な表現を使って、個人的な内容(メール、招待状など)や、写真、事物の説明文を書くことができる。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに習った少し長い英文を聞いて、内容を理解することができる。 ・ALTIによるインタビューテストなどで、日常生活や身近な話題に関する質問の内容を60～70%程度理解することができる。 ・ゆつくり話されたら、自分が知らない外国の行事や習慣についての説明を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書で習った話題について、キーワードを頼りに、内容を大まかに説明することができる。[発表] ・身近な話題について、簡単なプレゼンテーションをすることができる。[発表] ・身近な話題について、簡単な表現を用いて、個人的な意見を述べたり、友人と情報を交換することができる。[やりとり] 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な英語で書かれた身近な話題に関する調査・結果・グラフなどを80%以上理解することができる。 ・まとまりのある説明、評論、物語、随筆などの内容を理解し、概要や要点を理解することができる。 ・すでに習った英文を、感情を込めて聞き手に内容が伝わるように音読することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いたり読んだりした内容に関して、簡単な単語を使って、感想や意見を短く書くことができる。 ・簡単な単語や文法を使って、近況を伝える個人的な手紙を書くことができる。 ・自分の住んでいる町や名所を説明する文を書くことができる。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の字彙を参考にする、映画のセリフで使われているフレーズを聞き取ることができる。 ・授業で聞く天気予報や空港のアナウンスを、何度が聞けば、80%以上理解することができる。 ・映画やテレビドラマの会話の流れを部分的に理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が聴いた音楽や観た映画などについてであれば、自分の考えや感想などを述べるることができる。[発表] ・短い読み物や記事を読んで、メモがあれば概要を説明することができる。[発表] ・身近な話題について、友人のプレゼンテーションを聞いて、内容について簡単に質問をすることができる。[やりとり] 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとまりのある説明、評論、物語、随筆などを読み、各段落のキーワードを探し、それを手がかりに内容を60～70%程度理解できる。 ・まとまりのある説明、評論、物語、随筆などを読み、各段落のトピックセンテンスやメインアイデアを理解することができる。 ・まとまりのある説明、評論、物語、随筆などを読み、各段落の内容や筆者の主張を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な話題に関して、簡単な理由を示しながら、賛成・反対の意見を書くことができる。 ・自分のやりたことや学びたいことの志望動機や説明を書くことができる。 ・用途や目的にあったメールを書くことができる。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・自然なスピードで話されても、身近な話題なら、日常生活での会話を理解することができる。 ・ALTIによるインタビューテストなどで、日常生活や身近な話題に関する質問の内容を80%以上理解することができる。 ・英語で行われる授業や発表会に参加して、身近な話題であれば発言内容を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少し長めの読み物や記事を読んで、キーワードを頼りに、内容を大まかに説明することができる。[発表] ・身近な話題であれば、要点をまとめながら、1分間程度で話すことができる。[発表] ・身近な社会問題について、自分の意見を簡単に述べるることができる。[やりとり] 	<ul style="list-style-type: none"> ・実用的な英文(ゲーム、もの組み立て方など)を読み、理解することができる。 ・比較的長い説明、評論、物語、随筆などを読み、80%以上理解することができる。 ・比較的長い説明、評論、物語、随筆などを読み、全体から筆者の主張や論旨を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文と文を and, but, because などをつないだり、時間、場所や条件などを追加しながら、正確な情報を備えた文を書くことができる。 ・新聞記事や自分が観た映画に関して、自分の意見や感想を書くことができる。 ・聞いたり読んだりした内容に関して、概要を書くことができる。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・自然なスピードで話されても、日常生活での会話を理解することができる。 ・海外のニュース(BBC・CNNなど)を聞いて、映像を参考にする、内容を部分的に理解することができる。 ・映画やテレビドラマの会話の流れを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントなどを用いて身近な社会問題についてプレゼンテーションをすることができる。[発表] ・電話で相手と会う約束をすることができる。[やりとり] ・身近な社会問題について、準備をした上で、簡単な議論をすることができる。[やりとり] 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な問題に関する連続した複数の段落から構成される英文を読み、各段落の内容を理解し、英文の流れを把握することができる。 ・日本の英字新聞(The Japan Times/The Japan Newsなど)で身近なテーマや興味のある内容の短い記事を80%以上理解することができる。 ・概要や要点を把握するために読み流したり、自分が欲しい情報を拾いながら目的に応じて読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の流れに従って、旅行記、自分史、身近なエピソードなどを書くことができる。 ・いくつかのパラグラフを使い、流れが分かる文章を書くことができる。 ・日本や自分が住んでいる地域の伝統文化を詳しく紹介する文章を書くことができる。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・自然なスピードで話されても、天気予報や空港のアナウンスを60～70%程度理解することができる。 ・プレゼンテーションやディベートで、身近な話題であれば、長い話や複雑な議論の流れを60～70%理解することができる。 ・海外のニュース(BBC・CNNなど)を聞いて、映像を参考にする、内容を60～70%程度理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な社会問題について、意見や論点を整理しながら、自分の考えを主張することができる。[発表] ・友人のスピーチやプレゼンテーションを聞いて、概要を理解したうえで、意見を述べたり、質問を投げかけることができる。[やりとり] ・電話で相手に予定の変更を伝えることができる。[やりとり] 	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的長い説明、評論、物語、随筆などを読み、自分の意見と比較することができる。 ・社会的な問題に関する複数の英文を読み、内容の共通点・相違点を理解することができる。 ・レポート作成やプレゼンテーションのため、インターネット、雑誌、新聞から必要な情報を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた資料や図表に関して、適切な説明文を書くことができる。 ・目的、原因、結果、仮定などを示しながら、明瞭でわかりやすい内容の文章を書くことができる。 ・根拠を示しながら、複雑な文構造を含んだ、つながりのある文章を書くことができる。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションやディベートで、長い話や複雑な議論の流れを60～70%程度理解することができる。 ・社会的な問題に関する講演会に参加して、比較的長い話の大まかな内容を理解することができる。 ・模範国連などの会議に参加して、大まかな議論の流れを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱ったテーマをもとに、自分なりの新しい視点を加えて、プレゼンテーションをすることができる。[発表] ・英字新聞の記事を読んで、概要を説明することができる。[発表] ・ネイティブスピーカーと幅広い話題について十分に対話を続けることができる。[やりとり] 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な問題に関する比較的長い英文を、知らない語句を推測したり、背景知識を活用しながら、理解することができる。 ・海外滞在や留学に関する必要な情報や手続き書類を理解することができる。 ・日本の英字新聞(The Japan Times/The Japan Newsなど)の記事を読み、論点や根拠を明確にし、自分の意見と比較しながら批判的に読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筋道だった議論を展開しながら、自身の感情や体験を含んだ文章を書くことができる。 ・情報をまとめながら、それに対する自分の考えを効果的に書くことができる。 ・幅広い語彙や複雑な文構造を使いながら、まとまりのある文章を書くことができる。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションやディベートで、長い話や複雑な議論の流れを80%以上理解することができる。 ・海外のニュース(BBC・CNNなど)を聞いて、詳しい内容を理解することができる。 ・模範国連などの会議に参加して、発言の詳しい内容を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な問題に関するプレゼンテーションを行い、聞き手からの意見を聞きながら反論・同意を根拠とともに流暢に表現することができる。[発表] ・英字新聞の記事を読んで、その内容を詳しく説明することができる。[発表] ・複雑な議論に対しても、聞き手の意見を尊重しながら、積極的に自分の意見を表現することができる。[やりとり] 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な問題に関する英語のホームページを読んで、80%以上理解することができる。 ・英語の長編小説などの文学作品を味わいながら読むことができる。 ・英語の雑誌や新聞(Newswatch/TIMEなど)の記事を読み、論点や根拠を明確にし、自分の意見と比較しながら批判的に読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明瞭で説得力のある論理展開があり、自分なりの表現を含みながら、読み手に効果的に伝える文章を書くことができる。 ・社会的な問題に関して、説得力がある文章が書け、文学作品の論評を書くことができる。 ・複数の視点を持ち、自分の意見や新しいアイデアを提案し、読み手が十分に理解できる文章を書くことができる。

英語学習を支える3領域チェックリスト

関心・意欲・態度

【学習ストラテジー】

- ① わからない言葉や用法があれば、辞書を使って自分で調べている。
- ② 英語力を向上させるために、自ら進んで家庭学習に取り組んでいる。
- ③ 習った表現を使って、書いたり話したりしようとする姿勢を持っている。
- ④ 自分の伝えたいことを表現するために、必要な言葉や用法を辞書やインターネットで調べ、自分で表現力を高める努力をしている。
- ⑤ 様々な国や地域に多種多様な英語が存在することを認識し、英語の学習に取り組んでいる。
- ⑥ 意見を述べるためには、知識や体験が必要であることに気づき、意欲的にそれらを得ようとしている。
- ⑦ 英語番組、DVD、CD等の教科書以外の教材を活用して、自主的に学習に取り組んでいる。
- ⑧ 英語力を向上させるために、自ら進んで英字新聞やペーパーバック、英語ニュースなどを利用している。
- ⑨ 世の中をより良く知るためのツールとして、英語を積極的に活用しようとする姿勢を持っている。

【コミュニケーションストラテジー】

- ① 間違いを恐れず、英語を話している。/ボディランゲージなどを使って、なんとか言いたいことを伝えている。
- ② 一人ひとりの意見や考えが多様な物の見方を教えてくれることに気づき、他者及び自分の意見や考えを尊重している。
- ③ 会話中に必要な情報が聞き取れなかった場合は、相手に質問し、確認している。
- ④ ペアワークやグループワークで、できるだけ英語で意見を述べたり、話し合ったりしようとする姿勢を持ち続けている。
- ⑤ ネイティブスピーカーが話す英語を模倣するだけに捉われず、自分なりにコミュニケーションを図っている。
- ⑥ 英語を聞いたり、読んだりする際、理解できないことがあっても、意味を推測して聞き/読み続けている。
- ⑦ 授業以外でも、自ら話題を提供し、ALTなどネイティブスピーカーに英語で話しかけている。
- ⑧ 上手く言えないことがあっても、別の語句や表現で言い換えたり、説明したりして伝えている。
- ⑨ 聞き手や読み手の立場を意識し、状況にあった言葉を選ぶなど、聞き手・読み手に優しいコミュニケーションを心がけている。

論理的思考力

【自分の考えをまとめる力】

- ① 自分の意見をメモ等を使って整理した上で、わかりやすく相手に伝えている。
- ② 自分の意見をいくつかの具体例を交えながら、わかりやすく相手に伝えている。
- ③ 英語で聞いたり読んだりしたことについて、日本語で自分の意見をまとめる際、文と文の論理的な関係を示すことば(ディスコースマーカ)を意識している。
- ④ 英語で自分の意見をまとめる際、文と文の論理的な関係を示すことば(ディスコースマーカ)を効果的に使っている。
- ⑤ 英語で聞いたり読んだりしたことについて、日本語で自分の意見をまとめる際、日本語と英語の論理展開の違いを意識している。
- ⑥ 英語で自分の意見をまとめる際、日本語と英語の論理展開の違いを意識している。
- ⑦ 与えられた情報を参考にして、自分の意見を修正したり、確認した上で、発表している。
- ⑧ 与えられたテーマについて、自分の意見をわかりやすく伝えるため、表現を工夫しながら主張している。
- ⑨ 与えられたテーマについて、自分の意見を矛盾や飛躍がなく、根拠を持ってわかりやすく論理的に展開している。

【他者の考えを理解する力】

- ① 他者の意見を聞いて、その内容を部分的にでも理解している。
- ② 他者の意見を聞いて、その内容の真偽を客観的に判断している。
- ③ 他者の意見を聞く際、文と文の論理的な関係を示すことば(ディスコースマーカ)を意識して、主張を大まかに理解している。
- ④ 他者の意見を聞く際、文と文の論理的な関係を示すことば(ディスコースマーカ)を意識して主張を正確に理解している。
- ⑤ 他者の意見を聞く際、日本語と英語の論理展開の違いを意識している。
- ⑥ 他者の意見を聞く際、日本語と英語の論理展開の違いを意識しながら、その内容を正確に理解している。
- ⑦ 他者の意見を聞く際、主張のポイントを理解しながら、論理展開に矛盾や飛躍がないか意識している。
- ⑧ 他者の意見を聞く際、自分の知識や経験に基づいて分析したり、判断したり、評価している。
- ⑨ 他者の意見を聞いて、他の事実や自分の意見と比較・検討することで、議論を深めている。

文化理解

【理解するための視点】

- ① 自分の住む町や観光名所などで困っている外国人を見かけると、積極的に手助けしている。
- ② 短期間であれば、海外のホームステイプログラムに参加しようと考えている。
- ③ 異なる文化に興味を持つとともに、自国の文化との相違点を意識している。
- ④ 自分の住む町の風俗習慣と外国の風俗習慣との相違点や類似点を理解している。
- ⑤ 自国の伝統・文化と外国の伝統・文化の相違点や類似点を認識したうえで、異なる文化を理解している。
- ⑥ 自国の文化に基づく価値観を尊重しながら、異なる文化に基づく価値観を理解している。
- ⑦ コミュニケーションを通じて、異なる文化的背景を持つ人々のもの見方や考え方を知るとともに、自国の歴史、文化との相違点や類似点を理解している。
- ⑧ 自国中心の文化的観点からの発言が、異なる文化的背景を持つ人々に影響を及ぼすことを考慮し、コミュニケーションを図っている。
- ⑨ 異なる文化的背景を持つ人々と、言語、文化、歴史に基づく様々な価値観を認識し、コミュニケーションを通じて互いに理解を深めている。

【情報の収集と伝達の視点】

- ① 身近な事柄や日常生活に関する話題について友人と話をしている。
- ② 趣味や家族、将来の夢などについて、クラスで情報交換をしている。
- ③ 異なる文化について興味のある話題や情報を、書籍やTV、インターネット等を通じて理解を深めている。
- ④ 学校の授業以外でも、書籍やTV、インターネット等を通じて、海外からの情報を自ら進んで取り入れている。
- ⑤ 外国の地理、気候、観光について書籍やTV、インターネット等を通じ、理解を深めている。
- ⑥ 外国の風俗習慣、文化伝統行事について書籍やTV、インターネット等を通じ、理解を深めている。
- ⑦ 外国の科学技術や政治・経済などについて書籍やTV、インターネット等を通じて理解を深めている。
- ⑧ 姫路城をはじめ、県内の観光名所や特産品など、郷土の魅力を外国人の人々に説明している。
- ⑨ 外国の歴史や伝統文化、風俗習慣を書籍、TV、インターネット等を通じて理解するだけでなく、自国の歴史や伝統文化、風俗習慣を正しく理解し、海外の人々に説明している。

第1部 兵庫版基本 CAN-DO リストの開発

1 目的・趣旨

高等学校や中等教育学校においては、学習指導要領を踏まえ、英語を通じて、言語や文化に対する理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えを的確に理解したり、伝えたりするコミュニケーション能力を養うことが求められています。特に、コミュニケーション能力については、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能を総合的に育成し、英語によるコミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力を養うことが必要です。そのため、コミュニケーションの基礎となる語彙や文法等の知識を身につけることに加え、それらを活用して、実際の場面で、英語をコミュニケーションの手段として使えることが大切です。

「兵庫版基本 CAN-DO リスト*」は、生徒に身につけさせたい英語力を「英語を用いて～することができる」というディスクリプタ（能力記述文）で具体的に示すことにより、学習到達目標を明確にし、目標達成に向けた効果的な授業の実現をめざして開発されました。

2 基本的な考え方及び特徴

(1) 兵庫らしさを出すために

学習指導要領に加え、第2期「ひょうご教育創造プラン」が示す「めざすべき人間像」や「培うべき力」をリストに反映することで、その実現に向けた教育の推進を図ることめざしています。そのため従来の CAN-DO リストで設定されている「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能に加え、生徒の自律的な学習を促進するとともに、論理的思考力や言語の背景にある文化に対する理解を深めるため、「英語学習を支える3領域チェックリスト」として「関心・意欲・態度」、「論理的思考力」、「文化理解」の3領域を設定しています。

(2) 汎用性を高めるために

本リストを活用し、各学校がそれぞれの実情に応じて、具体的な学習到達目標を設定できるよう汎用性を持たせ、到達目標を12段階に区分して作成しています。

また、リストの配列は、通常下から上に上がるにつれ難易度が上がるよう配列されていることが多いですが、「兵庫版基本 CAN-DO リスト」はできるだけ多くの生徒が「できる喜び」を味わい、学習意欲を高められるように、上から下にいくにつれて難易度が上がるよう配列しています。

(3) 夢のリストを実現するために

県立高等学校及び中等教育学校の生徒を対象に「高校生の英語学習に関する意識調査」(pp.4~5 参照)を実施し、兵庫の高校生らが「英語を使ってできるようになりたい」と思う項目をできる限りリストに反映しています。

3 作成過程

(1) 構想委員会及び作成委員会の設置

本リストを作成するため、有識者や英語拠点校の教員等で構成する「構想委員会」及び「作成委員会」を設置し、リストを開発しました。

(2) 高校生の英語学習に関する意識調査の実施 (pp. 4~5 参照)

全県立高等学校及び中等教育学校の生徒を対象に「高校生の英語学習に関する意識調査」を実施し、英語学習につまずいた時期や多くの生徒が苦手とする学習方法を考慮し、リストを開発しました。また、生徒が「英語を使ってできるようになりたいこと」についても、できる限りリストに反映しています。

(3) 検証調査の実施

① 英語教員による並べ替え調査 (平成 26 年 11 月)

県立高校及び中等教育学校 8 校 62 名の英語教員を対象に、リストのディスクリプタの妥当性の検証調査を行い、その結果をリストに反映しています。

② 生徒自己評価アンケート調査 (平成 26 年 12 月)

①により作成したリストについて、県立高校及び中等教育学校の生徒 (921 人) を対象に「自己評価アンケート調査」を実施し、各ディスクリプタについて「よくできる・だいたいできる・あまりできない・全くできない」の 4 つの選択肢から、自分にあてはまるものを選ぶアンケート調査を実施しました。集計結果は、構想委員長である東京外国語大学大学院の根岸雅史教授に依頼し、項目応答理論 (IRT) を用いた分析を行い、リストの妥当性について検証しています。

(4) 英語力の目安

兵庫版基本 CAN-DO リストは、CEFR (注 1) に準拠して基礎レベルをより詳細に区分化した日本人英語学習者向けの参照枠である CEFR-J (注 2) を参考に、実際の県立高校生らの英語学習状況等を踏まえて作成しています。本リストの A~L の区分のディスクリプタが示す英語力の目安は、次のとおりです (注 3)。

兵庫版基本 CAN-DO リスト	実用英語技能検定	CEFR-J	CEFR
1~3	5~3 級程度	Pre-A1~A1.3 (注 4)	A1
4~5	3 級~準 2 級程度	A2.1~A2.2	A2
6~9	準 2 級~2 級程度	B1.1~B1.2	B1
10~11	2 級~準 1 級程度	B2.1~B2.2	B2
12	1 級程度	C1	C1

(注 1) CEFR(Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment 「外国語学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通言語参照枠」)は、2002 年 EU 理事会が、言語能力の検証システム構築のために活用することを公式に決議したヨーロッパ全土で外国語の学習者の習得状況を示す際に用いられるガイドライン。

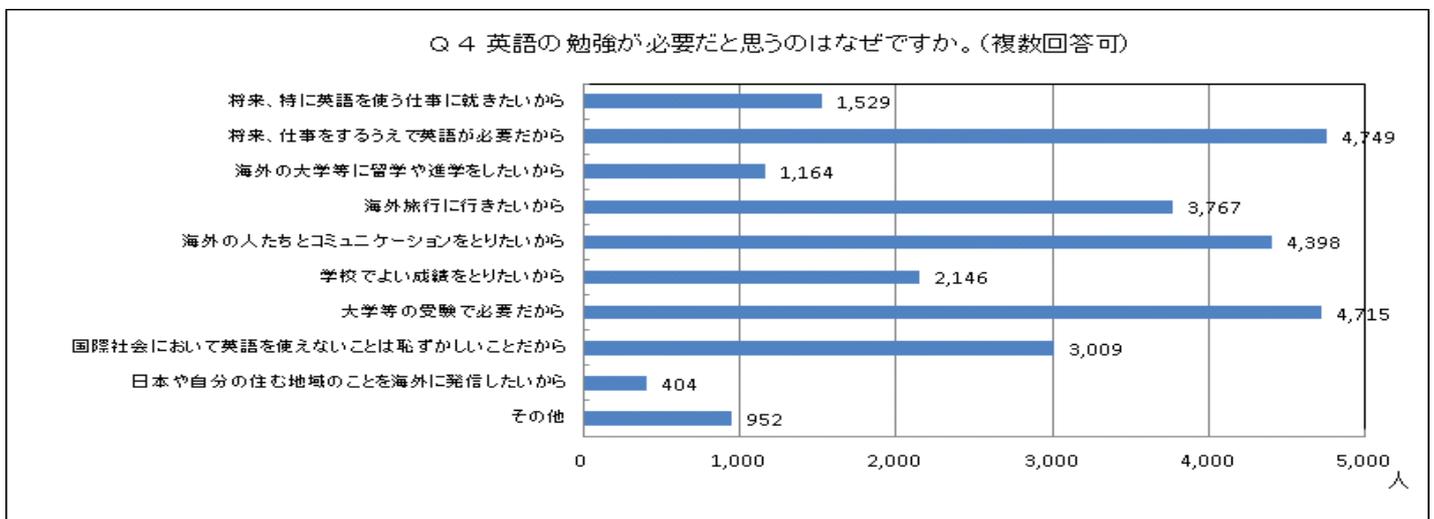
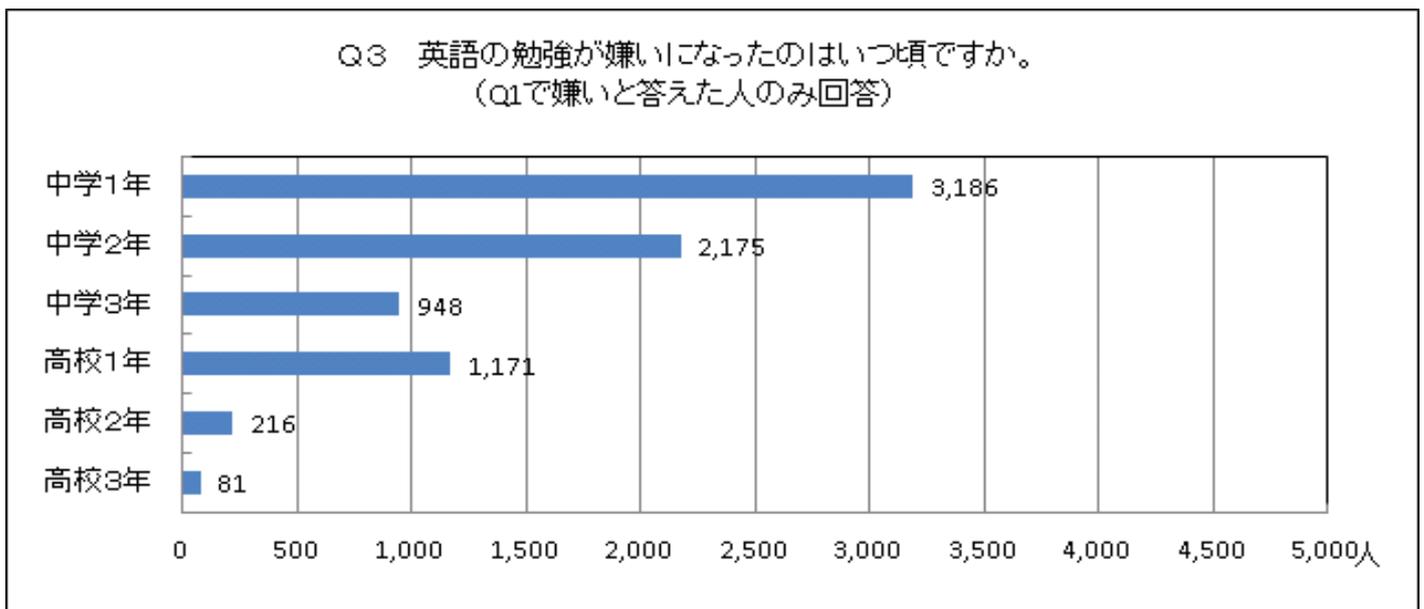
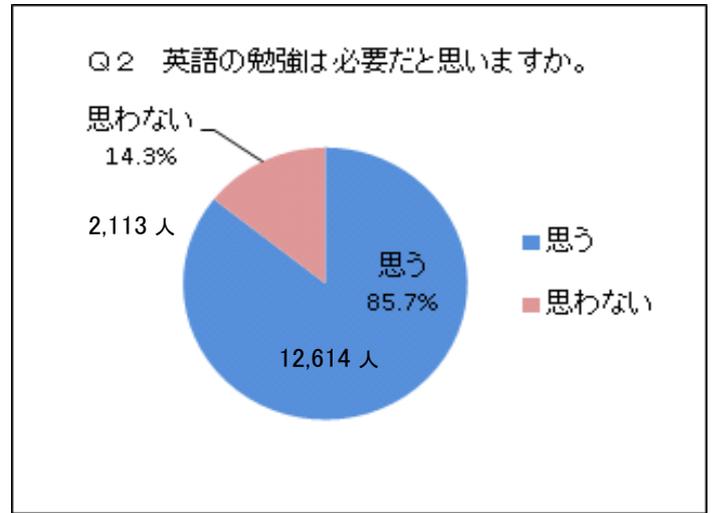
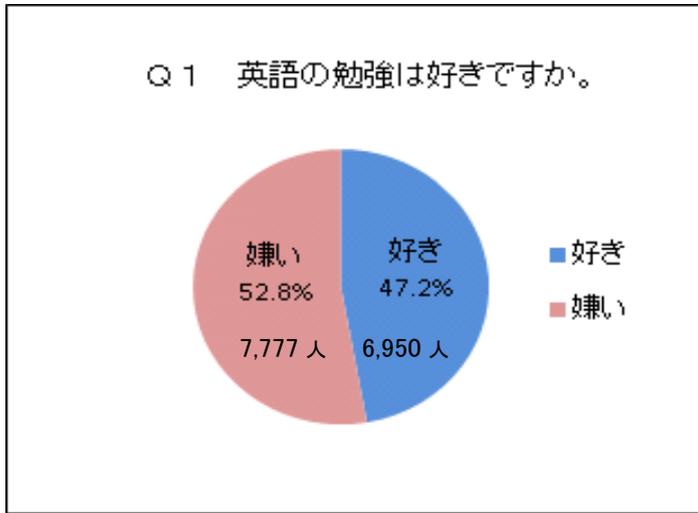
- (注2) 投野 由起夫 編 (2013) 「英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック」大修館
- (注3) 実用英語技能検定と CEFR の相関関係については、文部科学省が作成した「各試験団体のデータによる CEFR との対比表」(『平成 26 年度「英語教育改善のための英語力調査」の結果 (速報) について』) に基づき作成。
- (注4) CEFR-J で設定されている Pre-A1 区分は、本来 CEFR の A1 区分とは区別されていますが、本リストでは、Pre-A1 レベルも含めて A～C 区分を設定。

※■CAN-DO リスト

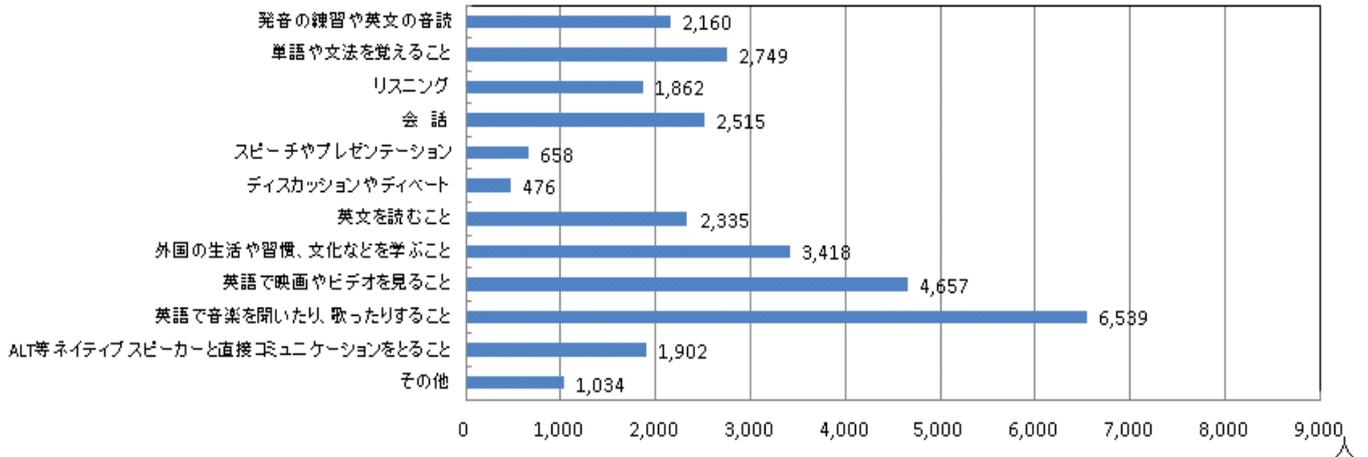
学習者がその言語を用いて何ができるかを記述したもの。CEFR (外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ参照枠) が最も代表的な例であり、偏差値のような集団に準拠した基準ではなく、目標に準拠した基準により、学習者の進歩をみていくことができる。評価としては、英語の場合、英語の学習結果として、英語を使って何ができるようになったかに焦点があてられる。(例えば、教科書を使って英語を学習する場合、教科書の理解自体を評価するのではなく、教科書で学習した結果、英語を使ってできるようになるべきことを評価する。)

平成26年度「高校生の英語学習に関する意識調査」

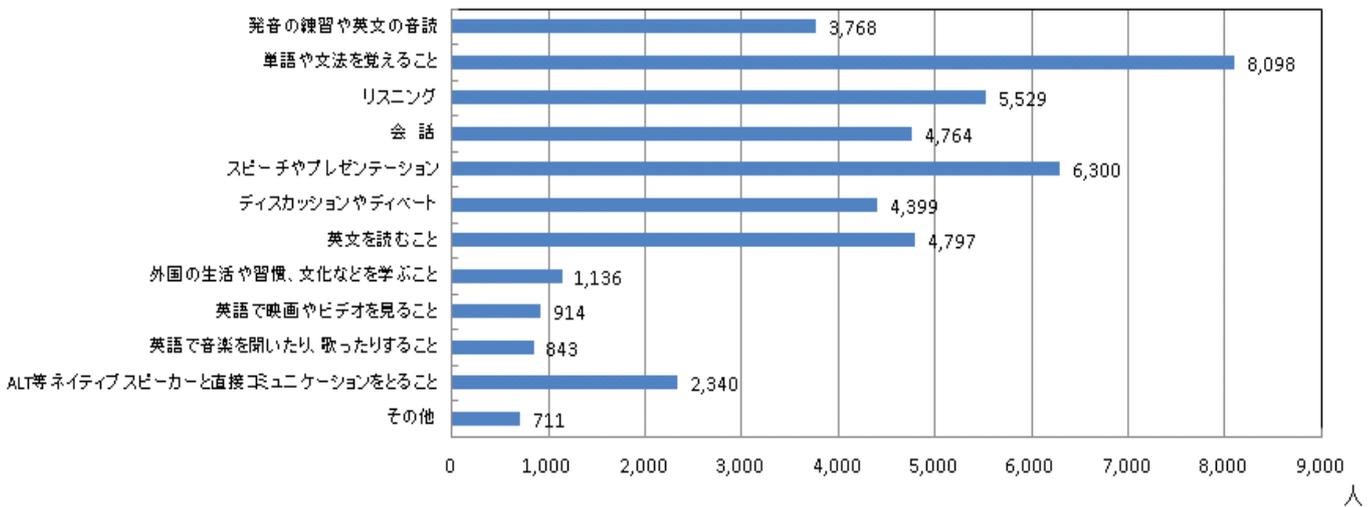
- 1 実施時期：平成26年9月
- 2 対象：県立高等学校 137校 各学校 1年生～3年生 各1クラスずつ抽出
- 3 対象者数：14,727人
- 4 調査結果



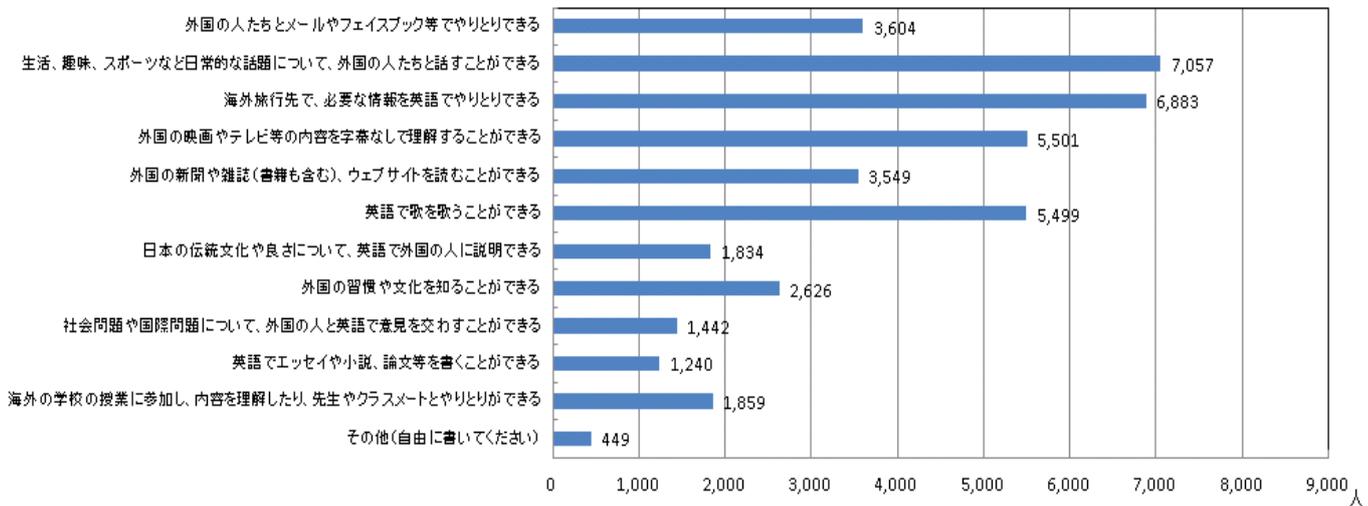
Q 5 英語の勉強で好きなことは何ですか。(複数回答可)



Q 6 英語の勉強で嫌いなことは何ですか。(複数回答可)



Q 7 英語を使ってどんなことができるようになりたいですか。(複数回答可)



第2部 兵庫版基本 CAN-DO リストの活用

I 兵庫版基本 CAN-DO リスト

1 学校独自の CAN-DO リストの作成方法

(1) 準備するもの

- ① 「兵庫版基本 CAN-DO リスト」(又はそれに類似する既存のリスト)
- ② 「兵庫版基本 CAN-DO リスト活用ガイド」、「教員のための To-Do リスト」
- ③ 各学校の年間指導計画・シラバス等
- ④ 「各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き」(平成25年3月文部科学省初等中等教育局)

※ホームページからダウンロード

http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1332306.htm

(2) 留意事項

各学校の英語教員全員で協力し、話し合いながら作成してください。生徒の実態を踏まえた上で、育成したい能力や生徒像、学習指導要領に基づいた指導と評価方法を共有することが不可欠です。

(3) 作成手順

【ステップ1】

「兵庫版基本 CAN-DO リスト」とともに各学校に配布された「教員のための To-Do リスト」を用いて、それぞれの教員が考える各学校で育成したい英語力や生徒像等について、英語科全体で情報を共有した上で、卒業時の学習到達目標を設定します。

※ 最も多くの生徒が身につけている英語力、学校としてめざしたい英語力はどの程度なのか、大枠について検討してみましょう。各学校で作成した年間指導計画を参考にしてもかまいません。

【ステップ2】

設定した卒業時の学習到達目標に相当する区分を「兵庫版基本 CAN-DO リスト」の1～12の中から見つけ出します。

【ステップ3】

次に生徒の入学時の英語力に相当する区分を「兵庫版基本 CAN-DO リスト」の1～12の中から見つけ出します。

【ステップ4】

【ステップ2】と【ステップ3】により、各学校で作成する CAN-DO リストの最上位区分と最下位区分が決定したので、「兵庫版基本 CAN-DO リスト」を参照しながら、各学校の生徒の実態を踏まえ、入学から卒業までの3年間で生徒が身につける英語力を育成するための全体の枠組みを決めます。

※ 「兵庫版基本 CAN-DO リスト」は、汎用性を高めるため各区分に3つのディスクリプタを示していますが、各学校で作成する場合は、1～2つでも問題ありません。

(例) 「兵庫版基本 CAN-DO リスト」

	聞くこと	話すこと
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆつくり話されたら、“Stand up” “Sit down” “Come here” という短い指示を理解することができる。 ・日常生活の身近な単語を聞いて、意味を理解することができる。 ・簡単なあいさつの言葉を聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の身近な単語を発音することができる。[発表] ・簡単な質問に対してYes/Noを使って、答えることができる。[やりとり] ・教室でよく使われる“Stand up” “Sit down” “I’m fine.” などの簡単な表現ができる。[やりとり]
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆつくり話されたら、数字・曜日・季節などの情報を正確に聞き取ることができる。 ・ゆつくり話されたら、授業でよく使われる指示を理解することができる。 ・ゆつくり話されたら、ALTの自己紹介を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な自己紹介(氏名、学年、学校、家族、住所など)をすることができる。[発表] ・日常生活の簡単なあいさつや数字、日付、季節、天気伝えることができる。[やりとり] ・相手の言っていることがわからない時に、繰り返してわかりやすく話してもらうよう頼むことができる。[やりとり]
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆつくり話されたら、自分の趣味や住んでいる場所などに関する質問を理解することができる。 ・すでに習った短い英文を聞いて、内容を理解することができる。 ・ゆつくり話されたら、ALTの指示に従って活動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な語句を使って、自分の感情や感謝の気持ちなどを表現することができる。[発表] ・日常生活の出来事や自分に関することであれば、簡単な表現で述べるすることができる。[発表] ・学校や自分のことなど、身近な話題について、ALTと短い会話をするすることができる。[やりとり]
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆつくり話されたら、ALTの説明を理解することができる。 ・日本語の字幕を参考にとすると、映画のセリフで使われている単語を聞き取ることができる。 ・地図を参考にしながら、すでに習った表現を使った道案内に従って、目的地までの道順を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な話題について、準備をした上で、簡単なスピーチをすることができる。[発表] ・簡単な表現を用いて、待ち合わせなどの約束をすることができる。[やりとり] ・自分が学んだことや経験したことであれば、簡単な表現を用いて、述べるすることができる。[発表]
5	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の駅や空港で、簡単な英語のアナウンスを聞いて、内容を理解することができる。 ・授業で聞く天気予報や空港のアナウンスを、何度か聞けば、60～70%程度理解することができる。 ・ゆつくり話されたら、自分が知っている外国の行事や習慣についての説明を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに習った表現を使って、リズムやイントネーションに注意して、話すことができる。[発表] ・よく知っている場所であれば、地図や道案内を見ながら、道順を教えることができる。[やりとり] ・比較的ゆつくり話されれば、自分のスピーチに対する質問に答えることができる。[やりとり]
6	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに習った少し長い英文を聞いて、内容を理解することができる。 ・ALTIによるインタビューテストなどで、日常生活や身近な話題に関する質問の内容を60～70%程度理解することができる。 ・ゆつくり話されたら、自分が知らない外国の行事や習慣についての説明を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書で習った話題について、キーワードを頼りに、内容を大まかに説明することができる。[発表] ・身近な話題について、簡単なプレゼンテーションをすることができる。[発表] ・身近な話題について、簡単な表現を用いて、個人的な意見を述べたり、友人と情報を交換することができる。[やりとり]
7	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の字幕を参考にとすると、映画のセリフで使われているフレーズを聞き取ることができる。 ・授業で聞く天気予報や空港のアナウンスを、何度か聞けば、80%以上理解することができる。 ・映画やテレビドラマの会話の流れを部分的に理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が聴いた音楽や観た映画などについてであれば、自分の考えや感想などを述べるることができる。[発表] ・短い読み物や記事を読んで、メモがあれば概要を説明することができる。[発表] ・身近な話題について、友人のプレゼンテーションを聞いて、内容について簡単に質問をすることができる。[やりとり]
8	<ul style="list-style-type: none"> ・自然なスピードで話されても、身近な話題なら、日常生活での会話を理解することができる。 ・ALTIによるインタビューテストなどで、日常生活や身近な話題に関する質問の内容を80%以上理解することができる。 ・英語で行われる授業や発表会に参加して、身近な話題であれば発言内容を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少し長めの読み物や記事を読んで、キーワードを頼りに、内容を大まかに説明することができる。[発表] ・身近な話題であれば、要点をまとめながら、1分間程度で話すことができる。[発表] ・身近な社会問題について、自分の意見を簡単に述べるすることができる。[やりとり]
9	<ul style="list-style-type: none"> ・自然なスピードで話されても、日常生活での会話を理解することができる。 ・海外のニュース(BBC・CNNなど)を聞いて、映像を参考にすると、内容を部分的に理解することができる。 ・映画やテレビドラマの会話の流れを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントなどを用いて身近な社会問題についてプレゼンテーションをすることができる。[発表] ・電話で相手と会う約束をすることができる。[やりとり] ・身近な社会問題について、準備をした上で、簡単な議論をすることができる。[やりとり]
10	<ul style="list-style-type: none"> ・自然なスピードで話されても、天気予報や空港のアナウンスを60～70%程度理解することができる。 ・プレゼンテーションやディベートで、身近な話題であれば、長い話や複雑な議論の流れを60～70%理解することができる。 ・海外のニュース(BBC・CNNなど)を聞いて、映像を参考にすると、内容を60～70%程度理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な社会問題について、意見や論点を整理しながら、自分の考えを主張することができる。[発表] ・友人のスピーチやプレゼンテーションを聞いて、概要を理解したうえで、意見を述べたり、質問を投げかけることができる。[やりとり] ・電話で相手に予定の変更を伝えることができる。[やりとり]
11	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションやディベートで、長い話や複雑な議論の流れを60～70%程度理解することができる。 ・社会的な問題に関する講演会に参加して、比較的長い話の大まかな内容を理解できる。 ・模擬国連などの会議に参加して、大まかな議論の流れを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱ったテーマをもとに、自分なりの新しい視点を加えて、プレゼンテーションをすることができる。[発表] ・英新聞の記事を読んで、概要を説明することができる。[発表] ・ネイティブスピーカーと幅広い話題について十分に対話を続けることができる。[やりとり]
12	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションやディベートで、長い話や複雑な議論の流れを80%以上理解することができる。 ・海外のニュース(BBC・CNNなど)を聞いて、詳しい内容を理解することができる。 ・模擬国連などの会議に参加して、発言の詳しい内容を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な問題に関するプレゼンテーションを行い、聞き手からの意見を聞きながら反論・同意を根拠とともに流暢に表現することができる。[発表] ・英新聞の記事を読んで、その内容を詳しく説明することができる。[発表] ・複雑な議論に対しても、聞き手の意見を尊重しながら、積極的に自分の意見を表現することができる。[やりとり]

例えば、入学時の英語力が3レベル相当で、卒業時の目標が8レベルであれば、3年間で3～8レベルまでの各学校の到達目標を段階的に設定することになります。

レベル区分については、「兵庫版基本 CAN-DO リスト」にあわせた6区分でもよいし、より詳細に目標を設定するために9区分等にしてもかまいません。また、学年毎に区切れることも可能です。

4技能の目標や達成状況が、技能毎に異なる場合(例えば、卒業後の進路を考え「聞く・話す」力をより育成したい等)は、技能毎に異なるレベルを設定する方法もあります。

これらの能力記述文(英語を使って～できる)を「ディスクリプタ」と呼びます。

【ステップ5】

全体の枠組みが決まれば、それぞれの区分に使用する CAN-DO ディスクリプタを適宜各学校に合うよう調整し、作成します。

■ ディスクリプタを作成する際は、次の点に注意してください。

- ① 教科書の内容に限定されたものではなく、別の場面でも使用できる汎用性のある表現にします。

(例) × 教科書の Lesson 5 の英文を読んで、概要を理解することができる。
○ まとまりのある説明文を読んで、概要を理解することができる。

- ② 言語材料ではなく、言語の使用場面や言語の働きについて記述します。
(具体的な言語の使用場面や言語の働きについては、学習指導要領を参照)

(例) × 未来形を用いた英文を書くことができる。
○ 自分の将来の夢について、簡単な表現を使って書くことができる。

- ③ ディスクリプタに難易度をつけたい時は、できるだけ共通の表現を使用し、条件や言語の質を変えると比較的簡単に作成できます。

(例) ・英字新聞を読み、概要を理解することができる。
・英字新聞を読み、詳細を理解することができる。

2 学校独自の CAN-DO リストの活用方法

(1) 目標を共有化します

まず、英語科全体で、育成すべき生徒像や英語力について目標を共有化し、それを実現するための指導方法や評価方法について共通認識を図ります。その上で、さらに授業を受ける側と授業をする側が目標を共有するために、各学校で作成した CAN-DO リストを生徒や保護者に公表するようにしましょう。年度初めに公表すると最も効果的に活用できます。

(2) 生徒の自己評価を実施します

生徒の自己評価は、生徒の学習の動機付けや意識を高めるとともに、CAN-DO リストを活用して、生徒自身が目標とする英語力を身につけるために、どんな知識や技能を身につければよいか判断する機会を与えることができ、自律した学習者を育成することができます。

① 年度当初

各学年の最初の授業で生徒に CAN-DO リストを配布し、生徒自身が自分の英語力を自己評価する機会を設けましょう。生徒が判断できない場合は、「例えば、今からやる活動ができれば、リストの〇〇ができたこととなります。」というように、実際にいくつか判断の目安となる言語活動を設定してみるとよいでしょう。

年度当初に生徒の自己評価を実施することで、生徒自身も1年間の英語学習のスタートラインがどこにあるのか理解することができますし、教員も生徒の英語力や英語学習に対する意識を把握でき、生徒の実態に応じた年間指導計画をたてる目安にもなります。

② 授 業

毎時間の授業や単元毎に、GOAL ACTIVITY を設定し、生徒が英語を使って実際に活動できる機会を与えることで、教員も生徒も授業のねらいが明確になり、効果的な学習活動を行うことができます。

③ 学期末

各学期の最後の授業で、再度、生徒が CAN-DO リストを活用して、自己評価する機会を設けましょう。学期当初と学期末毎に、生徒が自己評価を行う機会を設けることで、生徒が自分の英語力の伸びや学習の課題を認識することができ、学習意欲の向上や自律的な学習を促進する効果があります。

また、教員が生徒の自己評価の結果を集計・分析することにより、学習到達目標の達成状況を把握することができ、指導の成果や課題を見つけることができます。

ただし、生徒による自己評価の結果を、教員が行う生徒の評価資料として使うことはできないので注意が必要です。

【自己評価シート参考例】

(生徒用)

各項目について、自分がどれくらいできるか自己評価してみましょう。
右の表を参考にして1～4段階を記入しましょう。

	目 安	段階
できる	80～100%	4
だいたいできる	50～80%	3
あまりできない	20～50%	2
ほとんどできない	～20%	1

技能	CAN-DO リスト項目	学期毎に1～4段階を記入			
		1 初	1 末	2 末	3 末
書くこと	自分の趣味や好き嫌いを簡単な英語を使って書くことができる。				
	日常生活での出来事や学校生活の感想を簡単な表現を使って短い文で書くことができる。				

(教員用)

技能	CAN-DO リスト項目	達成状況 (○学期末)	
書くこと	自分の趣味や好き嫌いを簡単な英語を使って書くことができる。	4	○○%
		3	○○%
		2	○○%
		1	○○%

(3) パフォーマンステストを実施します

生徒の自己評価に加え、4技能を客観的かつ適切に評価するためには、筆記テストのみならず、パフォーマンステスト等を実施する必要があります。授業に「話す活動」や「聞く活動」を取り入れていながら、筆記テストのみで生徒の英語力を評価することは「指導と評価の一体化」が行われておらず、生徒の学習意欲を大きく低下させる

原因になります。指導による学習の成果を適切に評価し、その評価を次の指導につなげることが、効果的な学習活動を行う上で最も大切です。

■パフォーマンステスト

インタビュー、エッセイ、スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどがあります。

(4) 単元計画や指導案へ反映します

CAN-DO リストで示されたディスクリプタの内容ができるようになるためには、授業の中で、実際に生徒がディスクリプタにある言語活動を行う必要があります。そのためには、作成した CAN-DO リストが、授業で使用する教科書の単元計画や指導案に反映されるよう工夫することが大切です。

CAN-DO リストの4技能については、観点別評価における「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」の観点の評価に反映することができます。また、「英語学習を支える3領域チェックリスト」のうち「関心・意欲・態度」及び「文化理解」については、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」及び「言語や文化についての知識・理解」の観点に反映することが可能です。

【CAN-DO リストの指導案への反映例】

教材：Chapter 4 “Appreciating Japanese Culture”

「New Stream Communication English I」増進堂

(評価規準)

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力		外国語理解の能力		言語や文化についての知識・理解
	話すこと	書くこと	聞くこと	読むこと	
日本文化の良さを外国人に伝えたいという想いを大切にしてい意欲的に英語で書いたり話したりしようとする姿勢を持っている。(3領域チェックリスト 関心・意欲・態度【学習ストラテジー】③④)	自分が考える日本文化の魅力について、理由を添えて相手にわかりやすく伝えることができる。 (CAN-DO 話すこと 7)	(CAN-DO 書くこと 7)	外国人が良いと感じている日本の文化とその理由を筆者の主張を理解しながら読んだり、聞いたりすることができる。 (CAN-DO 聞くこと 6)	(CAN-DO 読むこと 7)	自国の文化と異なる文化を持つ国々との相違点や類似点を理解している。 (3領域チェックリスト 文化理解【理解するための視点】⑤⑥⑦) 自分が考える日本文化の魅力を発信するために必要な表現や語彙を理解している。

(GOAL ACTIVITY)

東京オリンピック PR 担当として、日本文化の魅力を紹介するスピーチを英語で行う。

(評価方法)

【行動観察】 コミュニケーション活動への 取組	【インタビューテスト】 自分の考える日本の魅 力についてスピーチを行い 内容に関する質疑応答 【筆記テスト】 自分の考える日本の魅 力について理由を添え て書く	【リスニングテスト】 ALT が良いと感じた日本 の文化とその理由をき いて質問に答える 【筆記テスト】 類似するテーマに沿っ た初見英文による読解 問題	【筆記テスト】 学習した語彙等を活用 する問題
--------------------------------------	---	--	--------------------------------------

■言語活動の設定

設定した CAN-DO リストのあるレベルだけを狙っていつも授業が行われると、そのレベルに到達していない生徒や、すでに到達している生徒への配慮が不足します。CAN-DO リストは生徒が自分の到達度を認識する最適なツールです。どのレベルの生徒にも、達成度が把握できる機会を与えるため、授業はさまざまなレベルの体験ができる機会を提供するよう心がけましょう。

(参考資料)

『「外国語表現の能力」や「外国語理解の能力」と対応する授業実践例や言語活動例』

文部科学省及び国立教育政策研究所

「新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践事例映像資料」

(高等学校 Vol.1～3)

「言語活動の充実に関する指導事例集」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiounen/1300990.htm

「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>

(5) 達成状況を把握し、見直しを行います

CAN-DO リストを活用して、指導と評価を行った後、生徒の達成状況を把握し、必要に応じて、指導方法や評価方法を見直す必要があります。また、設定した目標が適切であったかどうかについても見直し、適切でない場合は、CAN-DO リストの改訂を行う等の工夫が必要です。

Ⅱ 英語学習を支える3領域チェックリスト

「英語学習を支える3領域チェックリスト」には、「関心・意欲・態度」、「論理的思考力」、「文化理解」の3領域が設定されています。これは、「言語は知的活動（論理や思考）だけでなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤である」という学習指導要領の基本的な考え方に加え、「ひょうご教育創造プラン」がめざす「こころ豊かで自立した人づくり」の実現に向けて開発されたもので、プランに示されている「めざすべき人間像」や「培うべき力」の育成、そして、生徒の自律的な学習の促進を図るとともに、論理的思考力や言語の背景にある文化に対する理解を深める取組の大切さを生徒や教員により認識してもらうために設定しました。

■「文化理解」

外国語学習の目標は、4技能の育成とともに、異なる文化をもつ人々と積極的にコミュニケーションを図るための態度や能力を養うことです。これは、外国の事情や異文化について知識を増やすことだけでなく、自国の文化との相違や類似性、異文化の背景となっている価値観やものの見方、考え方などを、外国語による実際のコミュニケーションを通して認識した上で、実際にコミュニケーションを図ることを意味しています。そのため、自国文化を理解することも含め、「異文化理解」ではなく、「文化理解」としています。

1 学校独自の3領域チェックリストの作成方法

(1) 準備するもの

- ① 「英語学習を支える3領域チェックリスト」（又はそれに類似する既存のリスト）
- ② 各学校の年間指導計画・シラバス等

(2) 留意事項

各学校で3領域チェックリストを作成する際は、育成すべき生徒像を念頭に置いて作成してください。本リストは、学校独自のリスト作成の参考とするものであり、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能に加えて、必ずしもこれら3領域を含めなければならないということではありません。

(3) 作成手順

【ステップ1】

各学校の実態や教育目標を考慮し、必要と思われる領域やディスクリプタを選択して枠組みを作ります。

(提示例1)

- 「ペアワークやグループワークで、できるだけ英語で意見を述べたり、話しあったりしようとする姿勢を持ち続けている。」（関心・意欲・態度）

というように各ディスクリプタの前にチェックボックスを設けて、ディスクリプタの内容について、実際に生徒が学習意欲等について自分で確認できるように工夫します。

(提示例 2) 4 技能の区分の中に、観点として入れ込む。

	話すこと
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ネイティブスピーカーと幅広い話題について十分に対話を続けることができる。 【関心・意欲・態度】 ・授業以外でも、自ら話題を提供し、ALT に英語で話しかけている。

【ステップ 2】

選択したディスクリプタを各学校の実態に合うよう文言を変えるなどして調整します。

2 学校独自の 3 領域チェックリストの活用方法

(1) 目標を共有化します

「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の 4 技能に加え、「関心・意欲・態度」等についても教員間で目標を共有化し、その上で、それらの目標を各学校で生徒や保護者に公表することで、英語が「できる」「できない」に関わらず、英語学習に前向きに取り組もうとする生徒の意欲を大切にす教員の姿勢が伝わります。

(2) 生徒の自己評価を実施します

CAN-DO リストに示されている到達目標に達しない場合でも、英語学習そのものに対する関心や意欲について、生徒自身が振り返る機会を設けることで、学習意欲を維持したり、前向きに取り組む姿勢を持ち続けることができます。

(3) 単元計画や指導案へ反映します

「英語学習を支える 3 領域チェックリスト」のうち「関心・意欲・態度」及び「文化理解」については、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」及び「言語や文化についての知識・理解」の観点に反映することができます。

(4) 必要に応じてリストの見直しを行います

生徒の英語学習への取組状況を踏まえながら、4 技能の CAN-DO リストの見直しとあわせて、より生徒の実態に応じたチェックリストになるよう見直すことで、生徒の学習意欲をさらに高めることができます。

第3部 CAN-DO リスト活用事例

事例校：県立国際高等学校

「英語力を強化する指導改善の取組」等の拠点校の一つである県立国際高等学校は、平成24年度に学校独自のCAN-DOリスト（資料1）を作成し、翌年の平成25年度からリストの運用を開始しました。平成25年度のリスト活用時に多くの課題に直面し、英語科内で何度も議論を重ね、課題の克服に向けた取り組みを行いました。ここでは、実際どのような取組がなされたか、その実践例を紹介します。

1 生徒への提示方法

平成24年度に作成したCAN-DOリストを平成25年度の4月当初に生徒に提示しました。その際に、各学年がめざすレベルのみを切り取ってプリントにして、学年ごとに違うレベルを提示し、リスト全体はそのプリントの裏面に掲載しました。

2 授業との連動

CAN-DOリストは4技能について「～ができる」というディスクリプタを設定するので、授業もこれまで以上に4技能のバランスを考慮して取り入れることが必要であると英語科全体が認識し、授業の年間計画を作成しました。そして、評価についてもこれまで手薄であったスピーキングテスト、リスニングテストの導入を図ることになりました。

こうした計画を年度当初に立て、授業を行い、テストを実施し、1学期末に自己評価を初めて行わせました。このときには資料2とは異なる自己評価シートを作成し、各学年で実施しましたが、自己評価の結果を見て英語科教員全員が驚きました。それは生徒の自己評価が教師の想定よりはるかに低かったからです。「この生徒は十分できているのに、自分ではできていないと評価をしている。」という生徒が大半を占めたのです。この自己評価結果を見て、英語科教員はその原因を探りました。

1番の原因は、授業とCAN-DOリストがうまく連動していなかったことです。生徒が自己評価をするときに、「できているかどうか分からない」という声が続出しました。そこで、教員は逐一「この項目は、授業の～ができていたらOKです。」とその場で判断して説明する必要性がありました。この時、教員は、授業の中で自己評価の際の判断基準となる活動をどれだけ提供できていたのかについて考えさせられました。学年ごとに設定したレベルに相当するディスクリプタと連動した活動を授業の中に取り入れておけば、生徒も自己評価の時に困らなかったと思います。

また、もう一つの原因は、国際高校ならではの特殊な環境です。それは各クラスにずば抜けて高い英語力を持つ帰国生や外国籍の生徒が数名存在し、そうした生徒と無意識に比較してしまうことで、生徒の自己肯定感が極端に低くなる傾向にあったのです。

3 自己評価改善の取組

1 学期末の自己評価結果の分析を経て、2 学期は CAN-DO リストと授業の連動を図ること及び自己肯定感を高めるために、意見・考えを重視する授業に転換するなど、具体的な取組を行いました。

まず、授業の連動については、毎時間授業の目標として CAN-DO ディスクリプタを意識し、そのレベルに見合う活動を豊富に授業に盛り込みました。自己肯定感を高める試みとしては、帰国生や外国籍の生徒が話す流暢な英語が他の生徒にとって“本物の英語”であり、自分たちの話す英語は“本物ではない恥ずかしいもの”という誤った考えが背景にあるのではないかと考え、デリバリーよりもむしろコンテンツにこそ価値があるということを強調して教える姿勢を取りました。特に、プレゼンテーションなどでどのようにすれば聴衆を納得させることができるのか、アイデアやロジックの大切さを生徒に訴え、どんどん人前で英語で考えや意見を発表させる機会を設けました。

2 学期末に再度自己評価を行うと、結果は、全学年で教員の想定する評価と生徒の自己評価がほぼ一致していました。これまでの取組が功を奏したと、一安心したのですが、外部有識者として本校で指導助言を行っていただいている大学の先生方から重大な指摘を受けました。

4 効果的な活用方法

本校では、CAN-DO リストの一部を切り取って学年ごとに提示し、自己評価もその切り取られた一部の項目のみで行って来ました。本校の CAN-DO リストは、4 技能以外にも 3 領域を設けていますが、提示する際も、自己評価でも一貫して 4 技能しか扱わなかったのです。この提示方法および自己評価方法をご覧になった外部有識者の先生方から、本校の CAN-DO リストを生かしていないという指摘をいただいたのです。本来は、CAN-DO リスト全体を生徒に提示し、生徒がリスト全体を見て自己評価するべきだということです。

そして、授業と CAN-DO リストの連動についても、「CAN-DO リストから授業を作ってはいけない。もっと大きな目標があって、そこから授業を作るべきだ。」という助言をいただいたのです。ここで私たちは、CAN-DO リスト本来の活用方法について深く考えさせられました。CAN-DO リストは、生徒が外国語の能力を向上させていくために自らが使用する地図のようなもので、まず、地図全体の中で自分の立ち位置を把握することから始まり、次の地点に進むにはどういった力が必要になるのかを明示し、どんどんと高みに導いてくれるような存在であると気付きました。それを当初、国際高校では、切り取って、一部分だけを生徒に提示していました。これでは外国語学習の全体像の中のどこに自分がいて、どのように成長していくのか、生徒が認識することはできません。

また、せっかく設けた本校独自の 3 領域の中に、実は自己肯定感の問題を解決するディスクリプタがあったのに活用しきれていなかったことも指摘されました。それは「言語文化観」という領域の中にある「ネイティブスピーカーが話す英語を模倣することに捉われず、自分なりにコミュニケーションできる。」というディスクリプタでした。これを提示することで、生徒は「ああ、ネイティブみたいにならないといけないと思っていたけど自分なりにコミュニケーションができることでいいんだ。」と気付いたかもしれません。このように多くの反省がありました。しかし最大の反省がまだ残っていました。

5 視界から外れた生徒たち

1～2 学期の間、私たちは CAN-DO リストの切り取ったレベルを提示し、生徒に自己評価をさせてきました。その際、授業者兼評価者である教員の注目は、常に、設定したレベルに生徒がどれだけ到達したかに集まりました。このとき、すでにレベルをクリアしている生徒と、設定したレベルにどうしても到達しない生徒が存在していたのですが、こうした生徒に教員の目が届きにくくなっていた事実があります。授業自体も設定したレベルに合わせた内容であることが多く、すでにレベルをクリアした生徒にとっては退屈な授業であり、レベルに届かない生徒にとっては苦痛を伴う授業であったに違いありません。こうした生徒の心の叫びを聞き取ることができていなかったように思います。

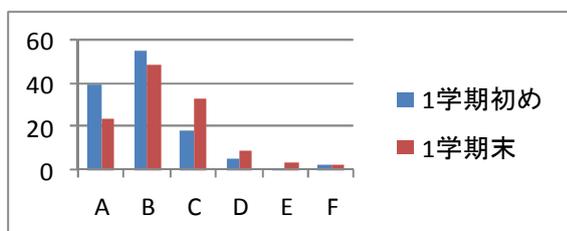
6 反省を生かす

こうした反省から、私たちは平成 26 年度当初に、全学年で CAN-DO リスト全体を提示し、同時にその時点での生徒の立ち位置を把握させるために自己評価を行わせ、学期末の自己評価でも CAN-DO リスト全体を見て自己評価を行うスタイル（資料 2）を確立しました。授業は下位レベルから上位レベルまであらゆるレベルを経験できるよう多種多様な試みを行う形にしました。そして、授業の目標は、本校全体の教育目標でもある「グローバル人材の育成」という大きな目標から作り上げるようになりました。

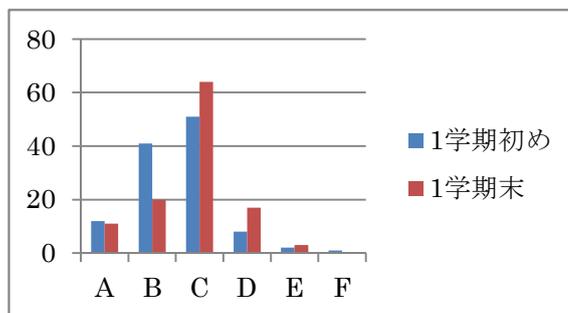
CAN-DO リストの運用を開始してまだ 2 年目で、これからもさまざまな課題に直面すると思いますが、その都度、英語科教員全員で協議し、よりよい方向に進んでいきたいと考えています。

【参考資料】

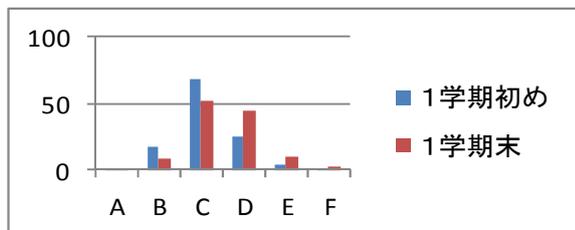
【話すこと】生徒自己評価 1 年次



【話すこと】生徒自己評価 2 年次



【話すこと】生徒自己評価 3 年次



このグラフは、県立国際高校が、学校独自の CAN-DO リストをもとに 1 年～3 年次の生徒にそれぞれ 1 学期当初と 1 学期末に「話すこと」について生徒の自己評価を実施し、グラフにまとめたもの

です。A→F に従って、ディスクリプタの難易度は高くなっています。

グラフを見ると、各学年とも 1 学期末には、生徒の力が伸びていることがわかります。また、1 年次には、A レベルの生徒が多かったですが、3 年次になると A レベルの生徒はいなくなり、C レベル以上の生徒が多くなっていることがわかります。

	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	コミュニケーション/態度	思考力/判断力	言語文化観
F	<p>内容:社会性の高い幅広い内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外で放送されているテレビやラジオの政治・経済的なニュースや、映画、講演 <p>英語:母語話者の自然な速度</p> <p>英語学習者への配慮なし</p> <p>理解:特別な努力なしで詳細を理解できる。</p>	<p>内容:社会性の高い幅広い内容</p> <p>論理性:いくつかの視点を示して、明確な構成で論理的に、かなり詳細に自分の意見を述べられる</p> <p>やりとり:言葉をとことら探さずに自然に自己表現ができる。即興でも十分に議論できる。</p>	<p>内容:社会性の高い幅広い内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外の英字新聞や雑誌の社会的、経済的、文化的の記事、文学作品、報告書等 <p>理解:辞書を使わずに難なく理解し、楽しむことができる。書き手の微妙な意図が理解できる。必要な情報を的確に得られる</p>	<p>内容:社会性の高い幅広い内容</p> <p>論理性:複数の視点を示し、明確な構成で論理的に詳細に意見を述べ、説評できる</p> <p>表現:文章作成のテクニクや接続表現などを効果的に使える。辞書を使わずに、短時間でまとまりのある文章を書ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本または世界のニュースが海外でどのように報道されているのかを知るために、英語で書かれた記事もチェックすることができる。 調べものをする際、英語で書かれた記事やデータにも目を通すことができる。 ニュースや講演などは、理解できないところがあっても、意味を推測するなどして聞き続けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 論理的で一貫性のある主張ができる 課題を多角的な視点から捉えることができる。 情報や情報源をどうみするのでは無く、それらに対して、批判的に深く考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いのアイデンティティや尊厳を大切にしつつ、英語を媒介としてコミュニケーションできる。 欧米・アジア諸国に対するステレオタイプを待たず、各個人の個性を尊重できる。 ネイティブスピーカーが話す英語を模倣することに拘わらず、自分なりにコミュニケーションできる。
E	<p>内容:教科書やテレビで見たことのある、なじみのある社会問題等</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外で放送されているテレビやラジオのニュース番組や母語話者同士の会話 <p>英語:自然な速度で標準的な発音の英語</p> <p>理解:話の大筋・要点を把握することができる。</p>	<p>内容:教科書やテレビで見たことのある、なじみのある社会問題等</p> <p>論理性:いくつかの視点から、理由を挙げて、自分の意見を論理的に述べられる</p> <p>やりとり:ニュースの要点について議論できる。プレゼンテーションを行うことができ、一連の質問にも対応できる。母語話者ともリラックスして、自然にやり取りできる。</p>	<p>内容:教科書やテレビで見たことのある、なじみのある社会問題等</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外の英字新聞やインターネットの英語サイト等で社会的な出来事や扱った文章 <p>理解:辞書を使わずに読み、内容をほぼ理解できる。新聞・評論文・小説など、英文の種類や読む目的に応じて、適切に読みこなすことができる。</p>	<p>内容:教科書やテレビで見たことのある、なじみのある社会問題等</p> <p>論理性:意見の共通点、相違点を整理し、それに対する自分の考えを、根拠を示しながら複数の段落で論理的に書ける。</p> <p>表現:幅広い語彙や複雑な文法構造をある程度使って、辞書をほとんど使わずに書くことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> うまく言えないところがあっても、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えることができる。 授業中にわからないことがあれば、直接ALTに質問することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> メリット、デメリットの両方を検討した上で、自分の意見をまとめることができる。 様々な情報を検討し、問題に対する自分なりの解決策を考えることができる。 発表されたものを聞いて、自分の意見との類似点、相違点を意識しながら、質問したり、意見を述べたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域毎に様々な英語表現があるという認識があり、その違いを楽しむことができる。 様々な国で英語が公用語として話されており、民族、国家、宗教等によって、人々のものの見方や考え方などに違いがあることについて理解することができる。 英語を学ぶことが目的ではなく、英語はコミュニケーションの手段であるという認識を待てる。
D	<p>内容:関心のある社会問題や長めの情報</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近なトピックの短いラジオニュース 天気予報や空港のアナウンス等 <p>英語:自然な速度だが、はっきりとなじみのある発音</p> <p>理解:大部分を聞きとり、要点を理解できる。日常会話ならたいして理解できる。</p>	<p>内容:興味・関心のある社会問題など</p> <p>論理性:効果的な事例を取り入れながら、自分の意見や感想を論理的に話せる</p> <p>やりとり:新たな質問を思いつくなどして話題を進展させ、ある程度会話を続けられる。英語でスピーチを行い、聴衆からの質問に答えられる。</p>	<p>内容:社会的な話題や物語</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の英字新聞、英語学習者向けに平易な英語で書かれた長めの物語 <p>理解:必要に応じて辞書を使えば、話の筋を理解することができる。文章の構成を意識しながら読み進め、関係ある情報を手に入れることができる。</p>	<p>内容:興味・関心のある社会問題など</p> <p>論理性:効果的な事例を取り入れながら、自分の意見を論理的に整理し、複数の段落で書ける。新聞記事等について、自分の意見を含めて基本的な内容を報告できる</p> <p>表現:必要に応じて辞書を使い、接続でなく表現:文法を用いて書くことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーワークやグループワーク等においてできるだけ英語で意見を述べたり、話し合ったりしようとする姿勢を待ち続けられる。 関心のあることについて相手に質問することができる。 授業以外でも、自ら話題を提供し、ALT等に英語で話しかけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見をサポートする具体的な事実や数値データを示すことができる。 文章や資料を読み、自分の知識や経験と照らし合わせて、自分なりの考えをまとめられる 他人の発表を、自分の意見との類似点、相違点を意識しながら聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界各國の文化に興味を持つことができる 日本文化との相違点に気づくことができる 文化に優劣をつけるのではなく、違いを各文化の特徴として受け入れる 地域によって、ジェスチャー等非言語的コミュニケーション手段の役割や用い方が異なることを理解できる。 家庭、学校や社会における日本の生活や風俗習慣などの違いを理解できる。
C	<p>内容:身近な話題、簡単な説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な話題に関する少し長めの議論 外国の行事や習慣などの説明 <p>英語:英語学習者向けに、ゆっくりはっきりとなじみのある発音で話される英語</p> <p>理解:話の概要を理解することができる。</p>	<p>内容:身近な出来事や興味のある話題</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校・趣味・将来の希望など <p>論理性:意見や感想を、具体例を加えながら、筋道を立ててわかりやすく話せる。</p> <p>やりとり:事前に準備して、メモの助けがあれば、聞き手に言いたいことをある程度の確に伝えられる。簡単な日常会話は可。</p>	<p>内容:まとまりのある説明文</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語の注や説明がついた、学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事 <p>理解:辞書を使えば読み始め、話の要点をつかむことができる。一つの段落において、主題文と支持文を区別することができる。</p>	<p>内容:身近な出来事や興味のある話題</p> <p>論理性:意見や感想を理由を挙げて整理し、段落を意識して書くことができる。</p> <p>表現:必要に応じて辞書を使いながら、身近な状況で使われる語彙・文法を用いて、表現できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 表情豊かに話したり、適切に相づちを打ちながら話を聞いたりすることができる。 ボード・ペン・ゲージや絵、写真などを駆使して、なんとか言いたいことを相手に伝えられる 原稿をできるだけ読まないようにし、聞き手に語りかけることができる。 英語のミスあまり気にせず、英語を口にするすることができる。 わからない言葉や用法があれば、辞書を引いて自分で調べることができる。 英語番組、DVD、CD等、教科書以外の教材を活用して、自主学習に取り組める。 会話中に必要な情報が聞き取れなかった場合は、相手に質問し、確認できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報や考えなどを図式化するなどして、概要や要点を捉えることができる 物事に対して疑問を待ち、問題点や課題を各文化の特徴として受け入れる point-reason-support という文構造を意識し、意見を述べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界各國の文化に興味を持つことができる 日本文化との相違点に気づくことができる 文化に優劣をつけるのではなく、違いを各文化の特徴として受け入れる 地域によって、ジェスチャー等非言語的コミュニケーション手段の役割や用い方が異なることを理解できる。 家庭、学校や社会における日本の生活や風俗習慣などの違いを理解できる。
B	<p>内容:身近な話題、短い簡単な情報</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の宿題、旅行の日程等の明確で具体的な事実 駅や空港等の短い簡潔なアナウンス <p>英語:英語学習者向けに、ゆっくりはっきりとなじみのある発音で話される英語</p> <p>理解:話の概要を理解することができる。</p>	<p>内容:身近な話題、短い簡単な説明</p> <p>論理性:身の回りの出来事や、自分の意見や気持ちも加えて、説明できる。</p> <p>やりとり:補助となる絵やものを用いて、基本的な情報を、簡単な英語で的確に伝えることができる。日常会話において簡単な質疑応答ができる。</p>	<p>内容:簡単な語を用いて書かれた人物描写、場所の説明、日常生活や文化の紹介などの説明文や短い物語等</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活、趣味、スポーツ等に関するもの等 <p>理解:要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。</p>	<p>内容:身近な話題、短い簡単な説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活や文化の紹介などの説明や物語 <p>論理性:筋道を立てて論理的に描写・説明ができる。</p> <p>表現:辞書を使用しながらであれば、基礎的な語彙や表現を用いて、感想や意見などを書くことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> point-reason-support という文構造を意識し、意見を述べることができる。 point-reason-support という文構造を意識し、意見を述べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> point-reason-support という文構造を意識し、意見を述べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界各國の文化に興味を持つことができる 日本文化との相違点に気づくことができる 文化に優劣をつけるのではなく、違いを各文化の特徴として受け入れる 地域によって、ジェスチャー等非言語的コミュニケーション手段の役割や用い方が異なることを理解できる。 家庭、学校や社会における日本の生活や風俗習慣などの違いを理解できる。
A	<p>内容:自分自身や自分の家族・学校・地域等の身の回りの事柄(趣味や節活動等)</p> <p>英語:英語学習者向けに、かなりゆっくりはっきりとなじみのある発音で話される英語</p> <p>理解:身近な話題に関連した句や表現を理解することができる。場所や時間等の具体的な情報を聞きとることができる。</p>	<p>内容:趣味、節活動などのごく身近な話題</p> <p>論理性:複数の文で身近な事を説明したり、感想を述べたりすることができる。</p> <p>やりとり:事前に準備すれば、基本的な語や言い回しを使って自己紹介をしたり、経験を語ったりできる。日常のやりとりで簡単な質問に答えられる。</p>	<p>内容:簡単な語を用いて書かれた、スポーツ・音楽・旅行など興味のあるトピックに関する文章や短い物語、簡単なポスターなどの日常生活で使われる非常に短い簡単な文章</p> <p>理解:イラストや写真も参考にしながら理解することができる。</p>	<p>内容:身近なトピック(好き嫌い、家族、学校生活など)、自分の経験について</p> <p>論理性:簡単な描写・説明ができる。</p> <p>表現:辞書を使用しながらであれば、ごく基礎的な語彙や表現を用いて、感想を短く書くことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> point-reason-support という文構造を意識し、意見を述べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> point-reason-support という文構造を意識し、意見を述べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界各國の文化に興味を持つことができる 日本文化との相違点に気づくことができる 文化に優劣をつけるのではなく、違いを各文化の特徴として受け入れる 地域によって、ジェスチャー等非言語的コミュニケーション手段の役割や用い方が異なることを理解できる。 家庭、学校や社会における日本の生活や風俗習慣などの違いを理解できる。

自己評価シート

(資料2)

現在

	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	コミュニケーション/態度	思考力・判断力	言語文化観
今の自分のレベル							
そう思う理由							
今後の具体的な取り組み							

1学期末

	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	コミュニケーション/態度	思考力・判断力	言語文化観
今の自分のレベル							
そう思う理由							
今後の具体的な取り組み							

2学期末

	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	コミュニケーション/態度	思考力・判断力	言語文化観
今の自分のレベル							
そう思う理由							
今後の具体的な取り組み							

3学期末

	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	コミュニケーション/態度	思考力・判断力	言語文化観
今の自分のレベル							
そう思う理由							
今後の具体的な取り組み							

()年()組()番 名前()

Q & A

Q1 何のために「CAN-DO リスト」を各学校で作成するのですか。

A1 各学校で CAN-DO リストを作成する目的は、主に次の3つです。

- ① 生徒が身につける能力を各学校が明確化し、教員と生徒が目標を共有することにより、指導と評価の改善に活用する。
- ② 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能を総合的に育成し、英語によるコミュニケーション能力、相手の文化的背景等を踏まえた上で、自らの考えを適切に伝える能力や思考力、判断力、表現力を養う指導につなげる。
- ③ 生涯学習の観点から、言語習得に必要な自律的学習者として主体的に学習する態度・姿勢を生徒が身につける。

Q2 「CAN-DO リスト」を作成することにより、どのような効果が期待されますか。

A2 英語を使って、何ができるかということを見通した指導と評価を行うことができるようになり、授業のねらいが明確化されます。そのため目標を達成するために教科書をどのように活用すればよいか、又、教科書以外にどのような教材を加えればよいか計画を立て、授業を実際のコミュニケーションの場とすることができます。

また、4技能について評価する必要があるため、これまで筆記試験に偏りがちであった評価方法を改善することができます。

さらに、学校全体としてリストを作成する必要があることから、英語科全員で育成したい力や指導法、評価方法を共有することで、組織的なチームとして機能し、学校全体としての指導力が高まります。

そして、生徒自身も目標が明確化されることで学習意欲が高まるとともに、授業での言語活動を通して「できるようになった。」という達成感を感じ、自己有用感が高まり、英語学習に自信を持てるようになります。

Q3 年間指導計画やシラバスを作成していても、CAN-DO リストを作成する必要がありますか。

A3 年間指導計画やシラバスは、学習の進度を中心に作成されており、記載されている学習内容の結果、生徒が実際に英語を使ってどのようなことができるようになったかという観点では作成されていません。従って、年間指導計画やシラバスとは別に CAN-DO リストを作成する必要があります。すでに作成している年間指導計画等を CAN-DO リストに反映させ、有機的に連動させることが大切です。

Q4 科目毎に CAN-DO リストを作成する必要がありますか。

A4 ありません。学校全体として入学から卒業までの学習到達目標設定を CAN-DO リストとして作成しますので、CAN-DO リストの中で、各科目でどの部分の力を育成するのか明確にしておけば、各科目毎の CAN-DO リストを作成する必要はありません。

異なる学科を設置している学校については、学科によって学習内容や学習到達目標が大きく異なる場合は、学科毎の CAN-DO リストを作成することも考えられます。

Q5 「兵庫版基本 CAN-DO リスト」を参考にして、各学校の CAN-DO リストを作成しなければなりませんか。

A5 「兵庫版基本 CAN-DO リスト」は、CAN-DO リストのひな型の一つですので、各学校の実態をより反映しやすいリストのひな型があれば、それらを参考にして作成してもかまいません。ただし、その際は、「学習指導要領」や「ひょうご教育創造プラン」の趣旨に基づいたリストになるよう留意する必要があります。

Q6 3年生では話す活動をしていませんが、どのように評価すればよいですか。

A6 外国語科の学習指導要領で定められている全ての科目の目標に、コミュニケーション能力の育成が掲げられており、3年生においても話す活動は行われるべきであり、その活動の結果、身についた力を評価する必要があります。

Q7 CAN-DO リストに大学入試センター試験の得点等を目標として記載してもよいでしょうか。

A7 学習到達目標の達成状況を把握するにあたって、大学入試センター試験や外部検定試験等を外部指標として補足的に活用することは可能ですが、ディスクリプタとして記載することは、CAN-DO リストの趣旨に合いません。

外部指標として補足的に活用する際も、それらの試験が何を測定しているのか把握した上で活用することが重要であり、受験結果そのものが目標となったり、試験の結果によって評定につながる評価をすることは適当ではないことに留意する必要があります。

Q8 各学校で作成する CAN-DO リストも 12 区分にしなければなりませんか。

A8 各学校の生徒の実態にあわせて活用しやすい区分で作成してください。

Q9 4 技能全てについて CAN-DO リストを作成しなければなりませんか。また、4 技能以外に 3 領域についても必ず作成しなければなりませんか。

A9 CAN-DO リストは、学習指導要領の趣旨を踏まえて作成されなければなりません。学習指導要領は、4 技能の総合的な育成を目指しており、その趣旨を踏まえると CAN-DO リストは 4 技能全てを含む必要があります。3 領域チェックリストについては、作成することが望ましいですが、任意としています。

Q10 各学校で作成した CAN-DO リストを生徒や保護者に公表する必要はありますか。

A10 教員と生徒が目標を共有した上で、CAN-DO リストを活用して生徒の自己評価を行うことが大変有益であることから、作成後、各学校で公表願います。

※ CAN-DO リスト全般に関する Q&A は、文部科学省が作成した手引きの中にも記載されています。 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1332306.htm

「兵庫版基本 CAN-DO リスト」構想委員会

委員長	根岸 雅史	東京外国語大学大学院総合国際学研究院	教授
副委員長	沖原 勝昭	京都ノートルダム女子大学人間文化研究科 神戸大学名誉教授	特任教授
委員	吉田 達弘	兵庫教育大学大学院学校教育研究科	教授
	越前 伸也	県高等学校教育研究会英語部会 県立宝塚西高等学校長	会長
	大倉 健三	県立明石城西高等学校	教諭
	河岡 佳子	県立姫路東高等学校	教諭
	篠原友妃亜	県立龍野高等学校	教諭
	杉本 嘉良	県立芦屋国際中等教育学校	主幹教諭
	西崎 善久	県立明石西高等学校	教諭
	藤本 直哉	県立国際高等学校	教諭
	柳瀬 学	県立加古川西高等学校	教諭
	山田 義夫	県立網干高等学校	教諭

「兵庫版基本 CAN-DO リスト」作成委員会

委員長	越前 伸也	県高等学校教育研究会英語部会 県立宝塚西高等学校長	会長
副委員長	杉本 嘉良	県立芦屋国際中等教育学校	主幹教諭
委員	大倉 健三	県立明石城西高等学校	教諭
	河岡 佳子	県立姫路東高等学校	教諭
	篠原友妃亜	県立龍野高等学校	教諭
	西崎 善久	県立明石西高等学校	教諭
	藤本 直哉	県立国際高等学校	教諭
	柳瀬 学	県立加古川西高等学校	教諭
	山田 義夫	県立網干高等学校	教諭
	事務局	兵庫県教育委員会事務局高校教育課	

※委員の所属・職は平成27年3月現在